

昭和二十二年六月十二日 (第三種郵便物認可)
令和四年六月十三日発行 (毎月一回十三日発行)

定価 五〇〇円

第969号

秋季昇段・級試験課題発表

第七十八卷

7
月号

高知
龍跳書道会

谷
淵
龍
翠
書

碧
水
丹
山
設
長
生
畫
紅
輪
白
日
獻
無
盡
燈

谷淵龍翠書



争坐位文稿

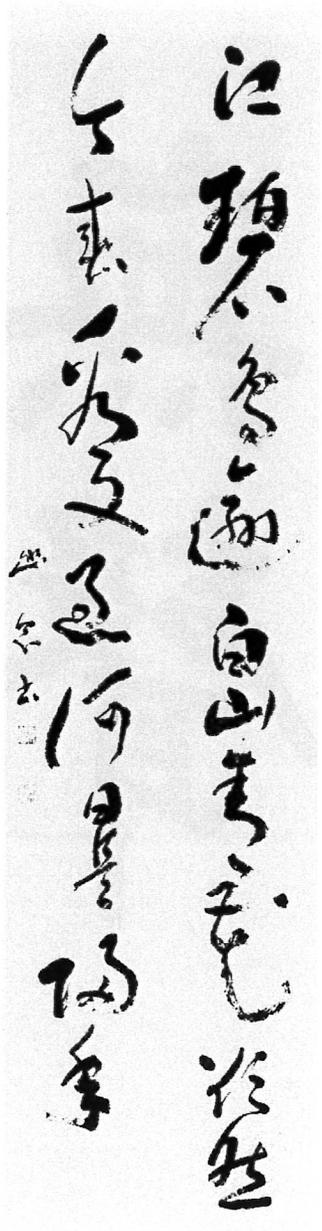
顔真卿

争坐位文稿は唐の広明二年（七六四年）、顔真卿が時の権力者・郭英かくえい父がに対し、その朝廷での勝手な振る舞いを糾ただすために書いた文章（書簡）の草稿で、五十六歳の時の作である。

顔真卿の行草書の代表作「祭姪文稿」「祭伯文稿」「争坐位文稿」は「三稿」と知られ、このうち「争坐位文稿」は、全文一二九五字からなる書簡の草稿。

廣末幽念書

江碧鳥逾白 山青花欲然 今春看又過 何日是歸年



市原處艸書

殘燈明滅裏 遙夜夢醒時 起立庭前樹 孤懷明月知



梅
川
桂
龍
書

潤物細
無聲耳

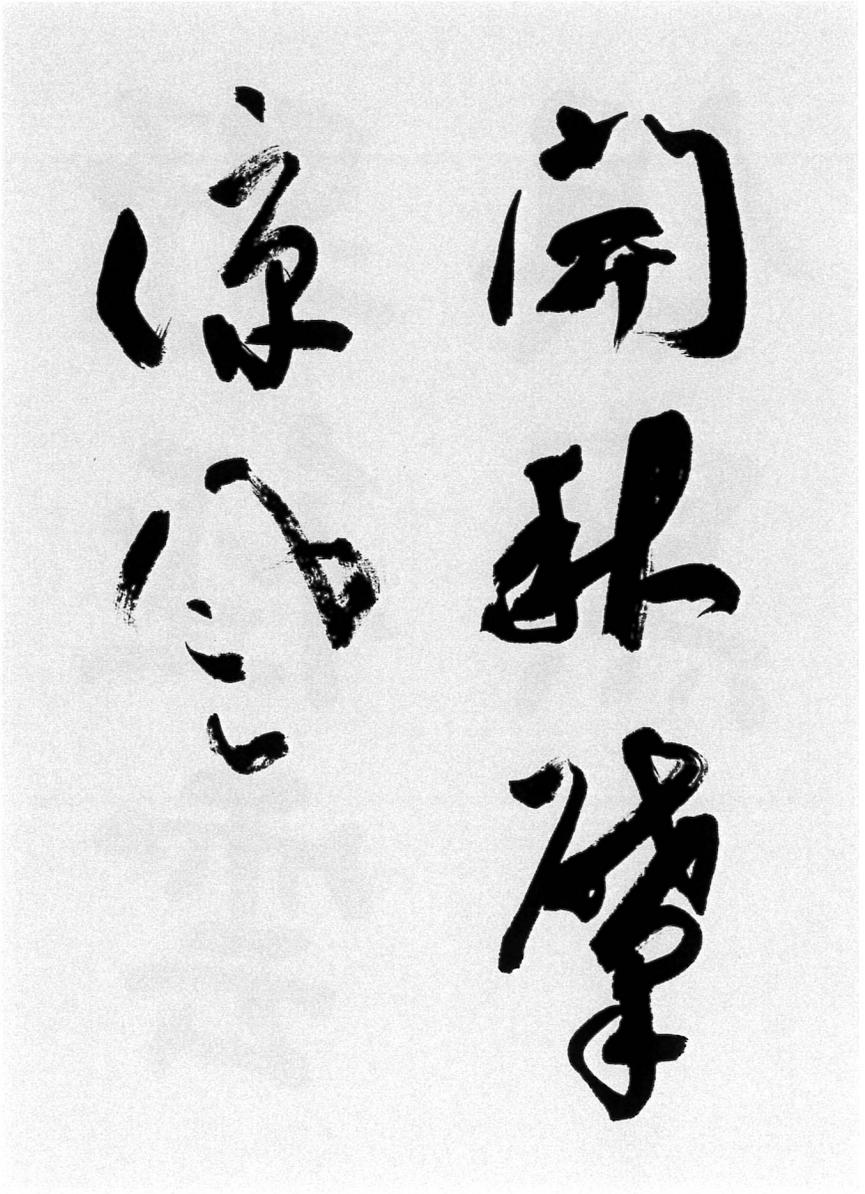
物を潤うるして細こやかにして声無し

梅川桂龍書

野徑雲
俱黑

野徑やけい
雲は俱ともに黒く

7月20日締切



福原 曉雲 書

開秋涼風を肇む
かいしゅうりょうふうを肇む

福原曉雲臨

争坐位文稿

唐 顏真卿

若州佐之與縣令

争坐位文稿

若州佐之與縣令

江 西 澄 翠 書

竹 下 涼 蟻 扇 門 寺
等 閑 炎 火 散 却 盡

澄 翠 書
癸 卯 年 冬 月 澄 翠 書

深 瀬 緑 堂 臨

古 之 以 り 之 其 之 甚 矣
ふ 可 多 才 尚 西 所

深 瀬 緑 堂 臨

西山極山臨

四大五少多
蒸怪鞠卷
望於致
待為
兼
欠

卷
八
廿
四

弘田賀峰書

相送
臨
高臺
川原
杳何
極日
暮
飛鳥
還
行人
去不
息

中
平
書

追惟酷甚痛慕摧從
有實心肝痛曾喜

小笠原広人

尚書宣示孫權所求詔
令所報所以博示還于

岡林邦心

悔禍誰為荼毒念尔
道殘百身何贖

岩河里華

想以如常冀未及秋
可成汝心

岡本空仁

福滿大日以來安法
吉貞降三秋成孤省明王

中平美峰

子宜我古法李法凡
女自有法者佳未

伊吹悠道

十七以先主勢司
為未去有日

大原桂園

天朗氣清惠風和暢
仰觀宇宙之大俯

岩村 祥

風以雲書自天翔
披之閱之如揭雲霧

北村桂旭

勢論令授稿之形

山崎隆志

条幅当選作品

福原 曉雲 選評

★天位

小笠原広人君⇨筆圧がしっかりと入り骨格が良く出来ている。

岡林邦心君⇨宣示表臨。落ち着いた作品に基本である楷書に味
わいあり。

岩河里華君⇨やさしい祭姪文稿流れ良し。

岡本空仁君⇨各文字がやや大に過ぎ混雑か。小文字を入れ、文
字間の研究でスッキリさせたい所。

中平美峰君⇨この作ももう少し全体的に大きくしたい。

★地位

伊吹悠道君⇨墨量を多く取り入れ、やや渴筆を入れると更に良
し。バテランの味。

大原桂園君⇨墨量豊潤気宇悠大。

岩村 祥君⇨新鮮な蘭亭叙です。今後大胆さも取り入れたい。

★人位

北村桂旭君⇨今後柔軟な運筆を取り入れ品格有る書を望みた
い。

山崎隆志君⇨太細線で変化を望みたい。柔軟さもね。

作品は毎月20日必着
(必ず守って下さい)

▷ 次回審査会 ◁

6月の審査は26日(日曜)午前9時30分に開始
します。審査会場は**高知城ホール**です。

川上の急流

中学一年課題
廣末幽念書

風花
月鳥

7月20日締切



7月20日縮切

小学五年課題

隅田亘心書

大夏の空の

7月20日締切

川天

の

小学三年課題
大原桂園書

川風

7月20日締切

せ
み

7月20日縮切

小学一年・ようち・ほいく課題
市原處艸書



7月20日縮切

学校名	つ	て	わ	み	ホ	
	け	い	す	す	ー	お
	た	た	れ	て	ム	父
四年	の	コ	ら	場	の	さ
級段	で	ス	れ	の	は	ん
氏名	す	モ	た	よ	し	は
	。	ス	よ	う	っ	、
		の	う	な	ぽ	プ
		花	に	所	の	ラ
		を	に	に	、	ッ
		見	さ	、	ご	ト

学校名	長い	て	く	です	る	鳴り
三年	あ	ど	中	こ	きの	り
	なが	う	が	ま	の	ご
級段	が	の	く	の	音	ま
氏名	空	よ	う	ど	を	は
	いて	こ	ど	う	楽	回
	いま	に	う	は	し	っ
	ます	は	に	は	む	て
	す。	細	な	大	こ	い
			う	き	ま	

がっこう	た	た	水	の	
	こ	い	中	よ	に
二ねん	と	な	ブ	う	じ
きゆうだん	が	い	ル	な	色
なまえ	な	せ	ド		の
	い	え	ー	く	
	魚	び	ザ	ら	ゼ
	た		ー	げ	リ
	ち	見	み		ー

がっこう				
	に	そ	ひ	き
ほねん	じ	ら	が	れ
だきゆう なまえ	の	に	し	い
	は		の	だ
	し			ね

秋季昇段試験作品募集

▽第一部 (準師範) 一般部段位、級位の者

○課題

雲裏帝城雙鳳闕 雨中春樹萬人家

雲裏えんりのの帝城ていじょう 双鳳さうほうの闕けつ／雨中うちゅうの春樹しゅんじゆ 万人ばんじんの家

○右の詩句を画仙紙半折に楷、行草体の二枚と二ページの争坐位文稿より、十二文字以上を臨書して計三点出品のこと。

○作品は無落款とし、作品毎に裏面左下にエンピツで現段級位と氏名を明記すること。

○当選者は準師範以下相当段位に認定編入する。

▽第二部 一般部級位の者

○課題

松高白鶴眠

松は高くして 白鶴はくかく眠る

○右を楷、行、草の三体を半紙三枚出品のこと。

○作品を楷、行、草の順に縦に貼つぎすること。

○作品は無落款とし、作品裏面左下にエンピツで現級位と氏名を明記すること。

○当選者は初段以下相当段級位に認定編入する。

☆出品料 第一部六千円／第二部四千円

(作品と同時に納入してください)

第一、二部参考手本を希望される人は本会役員に直接申込んで下さい。潤筆料は条幅三点につき一万五千元、半紙三点につき五千元。

▽学生・学童の部(毛筆部)

○課題の文字は龍跳七月号(七月二十日締切)の課題字句とします。

○規格は半紙。一人一点とします。

○書体は自由です。

○作品の裏にエンピツで学年、現段級位、氏名を書くこと。

○作品の表には絶対に書いてはいけません。

○出品料 五百円

▽硬筆作品

○課題の文字は龍跳七月号(七月二十日締切)の課題字句とします。

○それぞれの学年に応じた硬筆用紙に規定の字句、学校名、学年、現段級位、氏名を正しく書いて出品してください。

○出品料 五百円

△作品・出品料の締切

令和四年九月一日(木)

※出品料は本会口座に振込んで下さい。

※出品作及び受験料を審査当日、会場に持ち込む場合は、八時～八時三十分の受付です。

令和四年九月四日(日)

午前九時から審査準備、十時より審査開始

高知城ホール

〒783-0081 南国市片山四九〇

西山極山 宛

電話 (088) 86518857

注

封筒表に「昇試作品在中」と明記する事



(一・二段目) 梅川桂龍 選評
 桂山君 氣配りの行き届いた筆致で佳。

空仁君 柔らかな書きぶり、力強さが加われば更に良し。

桂園君 重厚感あり安定している。

花梢君 筆圧の変化をつけ、立体感あり。

千施君 やや硬さがあるが良くまとめている。

(二・三段目) 深瀬緑堂 選評

花道君 気分大きく伸びやか。

朱鳳君 清楚な作。

孝北君 線に深みあり、温かい作。

圭子君 思い切りの良い運筆で線も強い。

順子君 気分が大きく大胆な作。

(三・四段目) 大原桂園 選評

千晶君 大らかでさわやかな作。

広人君 良くまとまり明るい。

絵君 大胆で迫力あり。

愛菜君 しっかりした作。落款一考を。

利惠君 ゆとりがあり清々しい。

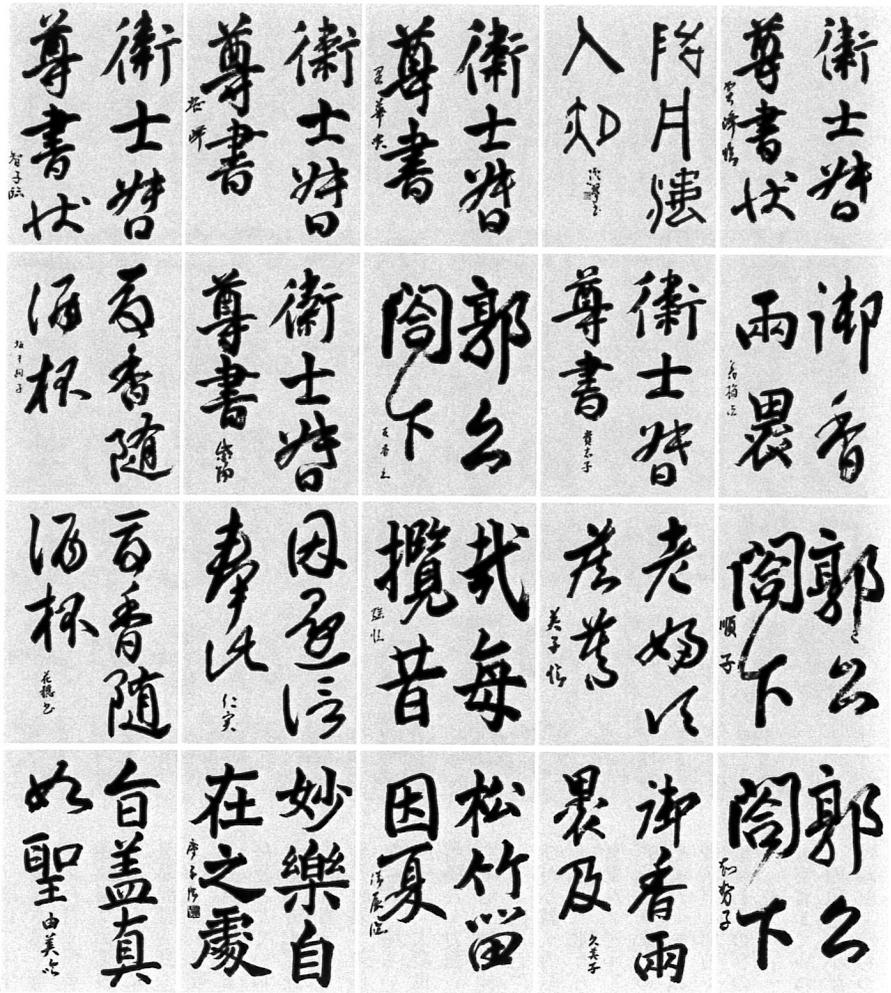
仁実君 伸びやかな作。

(四段目) 佐々木港花 選評

清辰君 形も筆使いもスキなし。すばらしい。

慶子君 落ち着いて手慣れた作品です。

みち君 力強く明るい作品です。



(一・二段目) 岡崎緑水 選評
 賀峰君 運筆巧みで練度あり。
 澄翠君 穂先が効き作品が明るい。
 里華君 字形、筆使い共に安定している。

旭峰君 強い線で明るい臨。
 智子君 線に温かみがあり原帖を良く
 花梢君 堂々とした筆致で作品が明るい。
 (二・三段目) 塚地桂峰 選評
 貴志子君 線強く堂々とした作。
 友香君 流れ良く力強い作。
 紫陽君 落ちつきのある線でまとまりも良い。

絢子君 力みなく明るい作。
 順子君 伸びやかで力強い作。
 (三・四段目) 武内美仁 選評
 英子君 十七帖の臨、線強く明るい。
 絵 君 いつものながら、迫力十分、
 もう少し余白の研究をして下さい。

仁美君 柔らかい線質で伸びやかな作。
 花穂君 無理なく安定した作。
 知勢子君 気力充実の作。
 久美子君 運筆リズム良く、ひきしまつた作。

(四段目) 隅田巨心 選評
 清辰君 筆良く伸び米芾を良く臨しています。
 慶子君 筆をしずめ一紙よく纏めています。
 由美君 丁寧によく纏めています。
 今後は義之の線を追求して下さい。

浦内 六年 五五 秀文 の羊毛の筆	上分 六年 五五 秀文 世界紀行	長岡 六年 五五 秀文 世界紀行	介良中 二年 小治 秀文 世界紀行	緑の街 路樹 重天 二年 月 虎文 介	緑の街 路樹 初分 二年 五五 秀文
六年 杉本 咲佳 の羊毛の筆	六年 五五 秀文 の羊毛の筆	六年 岡村 紀乃 在 の羊毛の筆	五年 岡村 紀乃 在 の羊毛の筆	六年 二四 有住 子 の羊毛の筆	六年 押田 五登 の羊毛の筆
須崎 六年 五五 秀文 の子の日供	岡重 小四年 岡上 五五 秀文 の子の日供	長岡 五年 森 四子 春 の子の日供	岡重 五年 飯田 しかり の子の日供	六年 五五 秀文 の羊毛の筆	六年 細 五 の羊毛の筆
小四 宮地 輝翔 風そよ	五年 五五 秀文 の子の日供	小四 五五 秀文 の子の日供	五年 岡村 紀乃 在 の子の日供	岡重 五年 西田 紗葉 の子の日供	五年 西田 紗葉 の子の日供

(一段目) 中学部
岡林邦心 選評

美桜君 良く整っている。
虎之介君 前者に同じ。

諭実君 大変良い。
葵 君 前者に同じ。

美那海君 良く書けているが紙面の下部が窮屈。
(一・二・三段目) 小学六年
岡林邦心 選評

希実君 良くまとめで良い。

岳登君 いていねい良い。

有佳子君 どりしりとして良い。

枇茉莉君 落ちついて書けて明るい。

朋乃佳君 筆使い良く、四文字のまとまりも良い。

大翔君 明るい作。

咲優君 大変良い。

翔夢君 力強いが左の行が下がり過ぎた。

心桜君 伸び伸びと書けて良い。

(三・四段目) 小学五年
河村容舟 選評

ひかり君 力強く形も良い。

千春君 堂々としてまとまっています。

真里君 どりしりとよく力があります。

彩心君 じめじめに書けています。

聖剣君 いていねいに書けています。

紗菜君 明るくまとまっています。

結愛君 のびのびと書けています。

杏 君 一字一字でいねいです。

杏実君 いていねいに書けています。

(四段目) 小学四年
佐竹江月 選評

輝翔君 落ちついて書けています。



(一・二段目) 小学四年
 一乃君 〓 いていねいに書いています。
 一翔君 〓 元氣よく書いています。
 樹君 〓 一生懸命が伝わってきます。
 茉尋君 〓 力強くのびやかに書いています。
 結衣君 〓 明るい作品。
 愛加君 〓 まじめに書いています。
 聖愛君 〓 素直にゆつたりと書いています。
 (二・三段目) 小学三年
 悠成君 〓 落ち着いて書いています。
 改太君 〓 いていねいでしつかりした字です。
 さくら子君 〓 のびのびと書いています。
 蒼月君 〓 元氣いっぱい書いています。
 香羽君 〓 力いっぱい書いています。
 あおま君 〓 すなおに書いています。
 (三・四段目) 小学二年
 西山極山 選評
 実咲君 〓 名前と共に元氣よく書いています。
 あさひ君 〓 ぎょうぎよく書いています。
 まとい君 〓 いていねいな良い字です。
 あお君 〓 まじめな作品です。
 しゅんと君 〓 のびやかに書いています。この調子でがんばって。
 たいぎ君 〓 どしりとおちついて書いています。
 よしひさ君 〓 この調子でがんばって下さい。
 さゆき君 〓 まじめな作品これからいっぱい書こうね。
 みらい君 〓 元氣よく書きました。
 いぶぎ君 〓 形をとらえています。がんばって書いてね。
 はるま君 〓 いていねいに書いています。この調子で。

須南 前田 真音
長岡 押岡 岳登

毎月半ばの一週間ほど、お母さんは仕事がいそがしくて帰りがおそくなる。その代わり、お父さんが夕食に合わせて早めに帰ってくる。それが「お父さんウイーク」だ。
須南 六神特立・前田 真音

毎月半ばの一週間ほど、お母さんは仕事がいそがしくて帰りがおそくなる。その代わり、お父さんが夕食に合わせて早めに帰ってくる。それが「お父さんウイーク」だ。
長岡 天・九・押岡 岳登

毎月半ばの一週間ほど、お母さんは仕事がいそがしくて帰りがおそくなる。その代わり、お父さんが夕食に合わせて早めに帰ってくる。それが「お父さんウイーク」だ。
又礼 小・七・松本 紗亜弥

毎月半ばの一週間ほど、お母さんは仕事がいそがしくて帰りがおそくなる。その代わり、お父さんが夕食に合わせて早めに帰ってくる。それが「お父さんウイーク」だ。
長岡 六・六・二宮 有佳子

久礼 松本紗亜弥
長岡 二宮有佳子

須崎 濱渦 愛夏
久礼 中平 千友

毎月半ばの一週間ほど、お母さんは仕事がいそがしくて帰りがおそくなる。その代わり、お父さんが夕食に合わせて早めに帰ってくる。それが「お父さんウイーク」だ。
須崎 平・濱渦 愛夏

名前をつけてと任されるなんて、初めてのことだ。これまでに自分で名前をつけたことがある生き物を思い出す。お祭りのときにすくいだ。おとなしい金魚、それだけだ。
又礼 平・八・中平 千友

名前をつけてと任されるなんて、初めてのことだ。これまでに自分で名前をつけたことがある生き物を思い出す。お祭りのときにすくいだ。おとなしい金魚、それだけだ。
長岡 小五・七・森田 千春

名前をつけてと任されるなんて、初めてのことだ。これまでに自分で名前をつけたことがある生き物を思い出す。お祭りのときにすくいだ。おとなしい金魚、それだけだ。
長岡 平・六・安井 風葵

長岡 森田 千春
長岡 安井 風葵

越知 米澤 知那
別府 藤原 杏実

名前をつけてと任されるなんて、初めてのことだ。これまでに自分で名前をつけたことがある生き物を思い出す。お祭りのときにすくいだ。おとなしい金魚、それだけだ。
越知 平五・米澤 知那

名前をつけてと任されるなんて、初めてのことだ。これまでに自分で名前をつけたことがある生き物を思い出す。お祭りのときにすくいだ。おとなしい金魚、それだけだ。
別府 五・藤原 杏実

エンジンをかけたとき、遠くから、元氣そうな男の子の声が近づいてきました。「お母ちゃん、本当だよ、本当のちようちよが、いたんだもん。」
新庄 四・七・鍋島 絆

エンジンをかけたとき、遠くから、元氣そうな男の子の声が近づいてきました。「お母ちゃん、本当だよ、本当のちようちよが、いたんだもん。」
浦内 四・六・宮地 輝翔

新庄 鍋島 知那
浦内 宮地 杏実

長岡 高芝 仁貴
越知 大原 るい

エンジンをかけたとき、遠くから、元氣そうな男の子の声が近づいてきました。「お母ちゃん、本当だよ、本当のちようちよが、いたんだもん。」
長岡 小四・三・高芝 仁貴

エンジンをかけたとき、遠くから、元氣そうな男の子の声が近づいてきました。「お母ちゃん、本当だよ、本当のちようちよが、いたんだもん。」
越知 四・初・大原 るい

エンジンをかけたとき、遠くから、元氣そうな男の子の声が近づいてきました。「お母ちゃん、本当だよ、本当のちようちよが、いたんだもん。」
三橋 四・辻 信之助

きつつきは、野うさぎをつれて、ぶなの森にやって来ました。野うさぎを、木の下に立たせると自分は、木のて、べんのみきに止まりました。
秦 三・四・玉城 遥音

一ツ橋 辻 信之助
秦 玉城 遥音

附属 江頭 咲良
長岡 宮脇 改太

きつつきは、野うさぎ
をつれて、ぶなの森にや
つて来ました。野うさぎ
を、木の下に立たせると
自分は、木のとて、ぺんの
みぎに止まりました。

上分 田邊 瑞音
江ノ口 下村亜李衣

ながおか 森田 実咲
すさぎ 谷わきあいら

たんぼぼは、花と
じくを、しずかに
休ませて、たねに
たくさんの、えいよ
うを、おくります。

うらの内 中井 とうや
一ツばし もり田きょうか

すさぎ 金どう りり
すなん にしむらたいき

たんぼぼは、花と
じくを、しずかに
休ませて、たねに
たくさんの、えいよ
うを、おくります。

えがおで
えんそく
おいしい
おむすび

えがおで
えんそく
おいしい
おむすび

えがおで
えんそく
おいしい
おむすび

はだ せいけあおい
すさぎ たむらさゆき

うらのうち いけだりひと
おこう しまむらこはる

えがおで
えんそく
おいしい
おむすび

えがおで
えんそく
おいしい
おむすび

えがおで
えんそく
おいしい
おむすび

えがおで
えんそく
おいしい
おむすび

ながおか おしおかいぶき
すさぎ こんどう すず

出品票の名前は楷書ではっきり書いて下さい。

★★出品票は黒枠をきちんと切つて下さい。 ★臨書は出典名を記入のこと。	中 公 山崎幸三 高 知 岡田由紀 中 公 横川美代 久 礼 瀧田美恵子 南 国 山中英男 田内史恵	★二級 仁 淀川 ○佃美由希	★三級 窪 川 ○高橋由美	★四級 藤 沢 ○駒崎真美	★五級 須 南 ○山本詩織 仁 淀川 中内泰子	★六級 南 国 ○林 真裕
	随 意 審査 岡崎 緑水		★師範 弘 田 賀峰 江 西 澄翠 岩 河 里華 中 平 美峰 深 瀬 緑堂 河 村 容舟 岡 林 邦心 塚 地 桂峰 奥 堂 皓月 岡 本 空仁 中 平 幸仙 西 山 極山 大 原 桂園 市 原 處艸	★準師範 山 崎 旭峰 桑 原 智子 大 崎 花梢 山 西 春草 門 田 恵子 西 森 令泉 森 光 望春 萩 野 羽花 平 井 桂草 西 内 仁子 浜 崎 洋堂 高 橋 桜芳		
	天 野 喜泉 西 村 芳香 北 村 桂旭 中 村 里園 池 田 芳佐 別 役 美佐 高 橋 朱鳥 横 山 桂華 山 中 紅風 山 本 恵歩 芝 田 春琴 吉 田 深美 窪 田 碧泉 田 村 和子 岡 田 雄山		天 野 喜泉 西 村 芳香 北 村 桂旭 中 村 里園 池 田 芳佐 別 役 美佐 高 橋 朱鳥 横 山 桂華 山 中 紅風 山 本 恵歩 芝 田 春琴 吉 田 深美 窪 田 碧泉 田 村 和子 岡 田 雄山	濱 田 貴志子 横 山 友香 大 崎 紫陽 丸 田 宏子 井 口 花道 大 野 美賀 小 野 山美喜 山 川 百合 藤 原 朱鳳 岩 崎 竹山 利 谷 喜子 松 浦 明子 下 元 玉泉 伊 吹 悠道 岩 谷 紅花	濱 田 貴志子 横 山 友香 大 崎 紫陽 丸 田 宏子 井 口 花道 大 野 美賀 小 野 山美喜 山 川 百合 藤 原 朱鳳 岩 崎 竹山 利 谷 喜子 松 浦 明子 下 元 玉泉 伊 吹 悠道 岩 谷 紅花	
	★五段 坂 本 絢子 岩 村 孝北 戸 田 妙慧 岡 村 圭子 大 平 圭子 笠 原 多嘉 岡 林 翠 鎌 倉 春葉 橋 本 祝子 田 村 昭生 龜 井 司郎	★四段 濱 田 順子 西 森 啓助 横 山 星舞 大 井 淳 岡 本 美水 鈴 木 輝代 松 本 世津	武 内 美仁	★二段 松 本 絵		
	杉 本 美代 林 隆光 小 笠 原 広人 濱 田 幸子	★初段 横 田 仁美 中 田 花穂 井 上 知勢子 吉 村 久美子 西 尾 明美 品 原 律子 山 本 房 前 田 伸枝 渡 部 愛紀 植 田 愛菜 藤 中 裕美 大 原 紀美子 和 田 恵美 村 田 啓子 松 島 利恵 藤 原 勝子 掛 水 勝恵	偶 田 亘心	★一級 澤 谷 清辰 楠 瀬 慶子 横 川 美代 山 崎 幸三 井 上 増水 田 内 史恵		
★三級 ○高橋由美	★初段 横 田 仁美 中 田 花穂 井 上 知勢子 吉 村 久美子 西 尾 明美 品 原 律子 山 本 房 前 田 伸枝 渡 部 愛紀 植 田 愛菜 藤 中 裕美 大 原 紀美子 和 田 恵美 村 田 啓子 松 島 利恵 藤 原 勝子 掛 水 勝恵	偶 田 亘心	★一級 澤 谷 清辰 楠 瀬 慶子 横 川 美代 山 崎 幸三 井 上 増水 田 内 史恵			
○印は昇級	第 875 回 毛 筆 成 績	中 学 部	朝 ヶ 丘 堅 田 菜 那 羽			
○中内泰子	★三級 ○高橋由美	一 年 朝 ヶ 丘 前 田 理 功	★九段 朝 倉 松 本 美 桜			
○林 真裕	★六級 ○林 真裕	一 年 朝 ヶ 丘 前 田 理 功	★九段 朝 倉 松 本 美 桜			
○中内泰子	★六級 ○林 真裕	一 年 朝 ヶ 丘 前 田 理 功	★九段 朝 倉 松 本 美 桜			

(出品票)
のり代
4年
7月
条幅

氏 名

臨書は出典名

<p>小学部</p> <p>毛筆六年</p> <p>★特待生</p> <p>審査 岡林 邦心</p> <p>浦ノ内 正木希実</p> <p>須南 前田真音</p> <p>★八段</p> <p>吾桑 松浦由奈</p> <p>★七段</p> <p>長岡 押岡岳登</p> <p>蓮池 刈谷天海</p> <p>上分 植村晴陽</p> <p>上分 広田せいな</p> <p>★六段</p> <p>長岡 二宮有佳子</p> <p>江ノ口岡村枇茉莉</p> <p>須崎 谷 愛莉</p> <p>★五段</p> <p>一ツ橋岡村朋乃佳</p> <p>★四段</p> <p>附属 立石大翔</p>	<p>★三段</p> <p>池川 杉本咲優</p> <p>★二段</p> <p>池川 大田翔夢</p> <p>上分 くぼ田愛生</p> <p>★初段</p> <p>多ノ郷 今橋 蕾</p> <p>吾桑 中越悠守</p> <p>★一級</p> <p>一ツ橋 武内心桜</p> <p>★五級</p> <p>須崎 ○濱渦愛夏</p> <p>審査 河村 容舟</p> <p>★八段</p> <p>岡豊 飯田ひかり</p> <p>★七段</p> <p>長岡 森田千春</p> <p>★六段</p> <p>岡豊 岡上真里</p>	<p>長岡 猪野雛子</p> <p>長岡 安井風葵</p> <p>★五段</p> <p>須崎 谷口彩心</p> <p>上分 西森美陽</p> <p>★四段</p> <p>甲浦 川田聖剣</p> <p>★三段</p> <p>岡豊 西田紗菜</p> <p>戸波 塩見琉那</p> <p>長岡 公文雅心</p> <p>池川 藤原乙羽</p> <p>長岡 永尾 庵</p> <p>★二段</p> <p>須崎 岡崎結愛</p> <p>池川 鶴井創太</p> <p>★初段</p> <p>一ツ橋 田北 杏</p> <p>馬路 小松わと</p> <p>★三級</p> <p>別府 藤原杏実</p> <p>★四級</p> <p>別府 ○佃 柚汰</p>	<p>毛筆四年</p> <p>審査 佐竹 江月</p> <p>★七段</p> <p>多ノ郷 森光陽菜</p> <p>★五段</p> <p>浦ノ内 宮地輝翔</p> <p>新庄 鍋島 綜</p> <p>★四段</p> <p>上分 朝比奈来夢</p> <p>長岡 押岡風佳</p> <p>長岡 池島基陽</p> <p>★三段</p> <p>一ツ橋 氏原一乃</p> <p>上分 弘田美結</p> <p>長岡 高志仁貴</p> <p>須南 宮本里依羽</p> <p>多ノ郷 森岡快晴</p> <p>長岡 二宮嘉奈子</p> <p>★二段</p> <p>藤沢 渡部一翔</p> <p>池川 島田統樹</p> <p>須崎 毛利秀門</p>	<p>★初段</p> <p>一ツ橋 宮田茉尋</p> <p>初月 川淵結衣</p> <p>一ツ橋 戸梶愛加</p> <p>一ツ橋 片岡あい</p> <p>★五級</p> <p>馬路 ○上利綺沙</p> <p>★八級</p> <p>ふぞく○三本晴士</p> <p>★九級</p> <p>別府 ○庄武聖愛</p> <p>一ツ橋○志磨村彩</p> <p>審査 別役 美佐</p> <p>★四段</p> <p>多ノ郷 大城リサ</p> <p>★三段</p> <p>一ツ橋 安田悠成</p> <p>上分 梅原百叶</p> <p>須南 前田來音</p> <p>上分 小松のぞみ</p> <p>須崎 松田菜乃</p> <p>須崎 谷口桜心</p>	<p>★二段</p> <p>長岡 宮脇改太</p> <p>池川 つるいか月</p> <p>★初段</p> <p>長岡北村さくら子</p> <p>一ツ橋 田辺蒼月</p> <p>秦 玉城遙音</p> <p>岡豊 西宮咲希</p> <p>池川 藤崎杜真</p> <p>岡豊 島村倅空</p> <p>★一級</p> <p>附属 江頭咲良</p> <p>上分 田邊璃音</p> <p>★二級</p> <p>江ノ口○宮崎香羽</p> <p>長岡 竹内陽南子</p> <p>上分やなぎ本さき</p> <p>須崎 岡崎愛莉</p> <p>★四級</p> <p>一ツ橋○玉置はる</p> <p>秦 ○川上詩乃</p> <p>須崎 ○田村拓海</p> <p>★五級</p> <p>吾桑○梅原あおま</p>	<p>★六級</p> <p>潮見 須賀勇介</p> <p>★十級</p> <p>秦 阿漕結花</p> <p>★新規</p> <p>十級編入</p> <p>須南 西村ゆまな</p> <p>もうひつ二年</p> <p>審査 西山 極山</p> <p>★三段</p> <p>長岡 森田実咲</p> <p>小高坂 川西こうすけ</p> <p>★初段</p> <p>夜須 西村あさひ</p> <p>佐古 田村けんご</p> <p>★一級</p> <p>長岡 永尾まとい</p> <p>須崎 金堂りり</p> <p>★三級</p> <p>馬路 ○小松大緒</p>
--	--	--	--	--	---	---

<p>★六級 長岡 安井風葵 上分 西森美陽 浦ノ内 岡本大陸 長岡 猪野雛子 岡豊 岡上真里 浦ノ内 濱田龍暉</p> <p>★五級 越知 米澤知那 越知 藤野敬心 一ツ橋 田北杏 甲浦 片岡絢女 川田聖剣</p> <p>★四級 一ツ橋 徳平温郎</p> <p>★三級 長岡 公文琉心 越知 岡田侑晟</p> <p>★二級 須崎 岡崎結愛 長岡 永尾庵 一ツ橋 奥田健流 五所 濱田 梓</p> <p>★初段 岡豊 西田紗菜</p>	<p>★二級 浦ノ内○田中日向 上ノ加江 ○政岡希子</p> <p>★五級 別府 ○藤原杏美</p> <p>★六級 池川 ○藤原乙羽</p> <p>★七級 別府 ○佃 柚汰</p> <p>審査 市原 處艸</p> <p>★七級 新莊 鍋島 綜 多ノ郷 森光陽菜 藤沢 渡部一翔</p> <p>★六級 浦ノ内 宮地輝翔 初月 川淵結衣</p> <p>★五級 一ツ橋 氏原一乃</p>	<p>長岡 押岡風佳 浦ノ内 藤田結愛 浦ノ内 矢野蒼真</p> <p>★四級 一ツ橋 戸梶愛加 久礼 濱田かなで 馬路 牛窓環菜 上分 宮田菜尋 多ノ郷 朝比奈菜夢 森岡快晴</p> <p>★三級 長岡 高芝仁貴 浦ノ内 藤田 楓 一ツ橋 片岡あい 須南 宮本里依羽 上分 弘田美結 須崎 毛利秀門 須崎 竹村泰佑 藤沢 駒崎愛恵</p> <p>★二級 長岡 二宮嘉奈子 越知 和田莉歩</p> <p>★初段 越知 大原るい 一ツ橋 山下勇人 一ツ橋 梅原斗愛 馬路 志磨村彩 浦ノ内 浅野由梨 森田大翔</p>	<p>★一級 一ツ橋 辻信之助 土佐山 澤田 理</p> <p>★四級 浦ノ内○岡林夢大 一ツ橋○吉田心花</p> <p>★五級 馬路 ○上利綺沙</p> <p>★六級 須崎 ○川西桜空</p> <p>★八級 須崎 ○川西蒼空</p> <p>★九級 城東 ○持田和花 大谷北○山崎流依 ふぞく○三本晴士</p> <p>★十級 城東 ○布施実来</p>	<p>こっひつ 硬筆三年</p> <p>★四級 審査 市原 處艸</p> <p>秦 玉城遙音 一ツ橋 安田悠成 上分 梅原百叶 多ノ郷 大城リサ 多ノ郷 松浦結菜</p> <p>★三級 附屬 江頭咲良 上分 小松のぞみ 浦ノ内 藤田彩葉 江ノ口 宮崎香羽 一ツ橋 田辺蒼月 須崎 松田菜乃 須崎 谷口桜心 須南 前田來音</p> <p>★二級 長岡 宮脇改太 長岡北村さくら子 長岡 窪田まゆ 久礼 竹内陽南子 久礼 松本かんな 浦ノ内 森崎 虹 浦ノ内 美島希以花 浦ノ内 松山 翔 浦ノ内 津野凌功 浦ノ内 森田理央 一ツ橋 玉置はる</p>	<p>★初段 上分 田邊璃音 岡豊 西宮咲希 久礼 武内生和 越知 片岡あんり 秦 川上詩乃 秦 阿漕華絵 浦ノ内 山岡隼士 浦ノ内 山岡隼士 浦ノ内 島村倅空 久礼 木下みゆ 浦ノ内 森田 葵 須崎 岡崎愛莉</p> <p>★一級 江ノ口○下村亜季衣 須崎 田村拓海 浦ノ内 安並乃愛 上ノ加江 上分やなぎ本きい</p> <p>★二級 江ノ口○宮崎莉緒 吾桑○梅原あおま 上ノ加江政岡明星</p> <p>★四級 潮見 ○須賀勇介 上ノ加江 岩田あいな</p>	<p>★五級 浦ノ内○山本彩喜 藤沢 駒崎信慈</p> <p>★六級 浦ノ内○中田湖音</p> <p>★十級 浦ノ内 ○久保田健介</p> <p>こっひつ二年 審査 中平 美峰</p> <p>★三級 長岡 森田実咲 小高坂 川西こうすけ</p> <p>★二級 須崎 谷脇あいら 夜須 西村あさひ</p> <p>★初段 浦ノ内 中井とうや 戸波 塩見あやな 浦ノ内 山本こうせい</p>
---	--	---	---	---	--	--

第65回 龍跳書道展出品票

◎楷書で丁寧に記入下さい。

キ・リ・ト・リ

積 文		題 名	大 小 大 たて (半折・全紙横・連落等の書き方も可)	住 所 〒 - (番地まで記入のこと)	氏 名 ふりがな
(押ピン)					
		未 定	額・枠・軸・屏風 (左のいずれかを○でかこむ)	電 話 - () -	雅 号 ふりがな
				当番希望日 ○で囲んで下さい。 () 日の ・午前9時～午後1時 ・午後1時～5時 (最終日3時迄) ※連絡のない限り希望日の当番を お願いします。	
(姓 号)					
()					

※作品横(又は下)に添付します。丁寧に書いて下さい。

※出品票は六月二十六日(日)審査日迄に必ず提出して下さい。

連絡・問い合わせ・送り先等

・新規入会申込と会費の送金先

・「龍跳誌」冊数変更の通知先

〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎一三三一

隅田巨心

〒781-1501 新湊口西町

01690-3-31925

電話(〇八八九) 三五〇九七一番

・月例作品の送り先

〒783-0081 南州市片山四九〇

西山極山

電話(〇八八) 八六五―八八五七番

・「龍跳誌」の内容について

〒781-7412 安芸郡東洋町河内三〇四

福原暁雲

電話(〇八八七) 二九―二六五〇番

・編集についての連絡先

〒785-0010 須崎市鍛冶町六一八

江西澄翠

電話(〇八八九) 四二―三〇六七番

・送本についての連絡先

(冊数の相違等については当方へご連絡下さい。)

〒785-0055 須崎市大谷二〇四

野中恵花

電話(〇八八九) 四七―〇七二二番

あとがき

目には青葉 山ほととぎす 初鯉(はつがつお)

山口 素堂

山の緑は一層深まり、小鳥たちは高らかに歌い、久礼の鯉漁も活況で・・・よい季節であるのに、なぜか気分は晴れません、ウクライナでの惨状を耳にする度にやりきれない気持ちになります。「戦争は人間の生活問題を何一つとして解決しません!何一つとして!それは働く者のみじめな状態を更にはげしくするだけだ」と言ったのは「チポ一家の人々」の作者マルタン・デュ・ガールです。ロシア軍の一日も早い撤退を願わずにはられません。

さて、龍跳展ですが締め切りも迫りお忙しいことでしょう。近年、会員の出展数は八十点弱と減り、できれば点数増をお願いしたいと思います。自分の作品を公表するには、創作や探求が必要で実力をつけるにはよい機会ではないでしょうか。次回に向け、ご検討をお願いいたします。

※「高知県美術家協会」のホームページでは、協会に係る展覧会の写真や会報「杜」を掲載しています。アクセスするには「高知県美術家協会」で検索するか、左記のQRコードを読み込んでご覧になってください。

五月三〇日



― 桂龍 ―

月例競書課題

部 別	縮切日											
	七月二十日 縮切											
一般条幅	任 意											
半紙規定	野徑雲俱黑											
半紙隨意	任 意											
中学三年	川上の急流											
二年	花鳥風月											
一年	温故知新											
小学六年	田舎の道											
五年	七色火花											
四年	夏の川											
三年	天の川											
二年	川風											
一年	せみ											
保 育	う り す な											

会費の送金について

会費：半年分 3,000円 / 1年分 6,000円

1ヶ月の龍跳誌郵送料

(幸便搬送の方は干料不要)

11冊以上は次の計算による。(1ヶ月分)

Ⓐ	1冊～3冊	80円
Ⓑ	4冊～8冊	150円
Ⓒ	9冊・10冊	210円

〈例〉 12冊 $\text{C} + \text{A} = 290\text{円} \times \text{月数}$

17冊 $\text{C} + \text{B} = 360\text{円} \times \text{〃}$

30冊 $\text{C} \times 3 = 630\text{円} \times \text{〃}$

◎会費と龍跳誌干料は原則として半年分または1年分前納のこと。

◎送金は次の何れかへ

- ・〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎133-1 隅田亘心
- ・振替口座番号 01690-3-31925 龍跳書道会

(お問い合せ) ☎0889-35-0971

○月号(○冊)より○月号まで○ヶ月分
誌代 ○円 / 干料 ○円

と記入のこと。

編集室

福原 曉雲

野島 桂山

江西 澄翠

中平 美峰

発行人

福原 曉雲 (本部)

安芸郡東洋町河内三〇四

電話(〇八七) 二九一二六五〇

発行所

龍跳書道会

電話(〇八七) 二九一二六五〇

印刷所

(有)笹岡印刷所

須崎市東古市町二一六

電話(〇八九) 四二一〇二四四

月例作品送り先

〒783-0081 南国市片山四九〇

西山極山宛

電話(〇八八) 86518857